

1. 学校種：高校 国公立 教科：国語

2. 実習前にどんな目標を立てて臨んだか

私が立てた目標は2つあります。

1つ目に教壇実習を一番重視して行うということです。実習の中心はやはり、教壇実習となると感じていました。いくら生徒たちや先生方と関わるのが大切といっても、それは教壇実習ができることが大前提としてあります。実習生とはいえ教壇に立つ以上、生徒から見れば一教師。いい加減な授業はできません。ですから、教材研究をしっかりと行い、今できる精一杯の授業を行うことが私の第一の目標とし、実習に臨みました。

2つ目は1つ目を前提として、生徒や先生方と積極的に自ら関わっていくことです。せっかく実習に行かせて頂くのですから、自ら動いて多くを吸収したいということからその目標を立てました。

3. 授業について

①教材研究、準備（指導案、板書計画、教具など）について

私は高校1年生の現代文と古文を2クラスずつ、1クラス3時間で合計した12時間授業を行いました。

教材研究は、4月末に担当範囲を教えて頂いたので、その頃から少しずつ始めていました。ですが、やはり、授業を実際に行っていく中でやらなければならないことがたくさん出てきたので、随時教材研究は実習中も行いました。

準備として、指導案は実習前にはとりあえずすべての授業分を完成させ、実習に臨みました。初日に担当の先生に見せたところ、特に問題ない、大丈夫とほぼ手直しなくOKを頂いてしまったので、ほとんど指導案は自作のままとなりました。ただ、授業数のトラブルや、授業を行う中でやり方を変えていった部分、例えば古文は想定よりも生徒の理解度が低かったことから、本文を板書しない予定を板書しながらというやり方に指導案を書き換えました。

板書計画は現代文はできる限り必要なことだけを書けるよう少なめに用意しました。古文は板書をより分かりやすくするために、文法によって文字色を変えるようにする等の工夫を多くとり入れ、計画を練りました。

教具は、写真、自作イラスト、本を用意しました。事前に図書館へ行き、授業に使用できる写真や本を選びました。また、写真や自作イラストにはスムーズに提示でき、移動もできるよう、裏に磁石をあらかじめつけておきました。

②授業の設計と実際（運営、目的・内容・方法、視点、雰囲気づくり等）

現代文の授業は「聴くということ」という評論文を担当しました。まず、生徒に文章に入りこんでもらい、身近なものと感じてもらうことを目的に生徒たちに「相手に話していて嫌な気持ちになった経験はないか」などの問いかけを作り、1人ずつプリントを書かせました。ただ、指名するだけでは考えない生徒が必ずでると考えたからです。その後の授業でもその書かせたプリントの意見を取り入れつつ毎回の授業を行った結果、生徒からの感想では、身近な例があって分かりやすかったとの声が多く聞こえてきました。また、授業内では私の興味のあるキノコの話为例として活用したり、文章に登場した本を実際に持参して提示することで、生徒に興味を惹かせようと努力しました。ただ、文章を読解するだけではなく、楽しさを見出してもらうことがねらいとしてありました。

古文の授業では、文法はまだほとんど習っていない状況であったので、本文を理解させることを中心として授業を行いました。イラストを自作したり、神社の写真を見せることで、古文の世界に入り込んでもらうきっかけ作りを大切にしました。ただ、説明するだけではなく、前に物を提示することにより、生徒が前を向くということが非常によく分かりました。また、古文を担当した2クラスは、1クラスは騒がしく、もう1クラスは斜に構えた生徒が多いクラスであったため、内容は同じでもやり方をところどころ変えた授業を行いました。例えば、騒がしいクラスでは反応が良いので、皆で重要語句の1つをリズムに言わせてみたりといったことです。加えて、古文も文章を訳すだけでなく、あえて最後の結末を言わず結末を考えさせ、書かせることにより、生徒の文章の理解度と思考力、想像力を働かせる授業を行いました。

色々な意見が出たり、想像もしなかったような答えが返ってきたりと、非常に興味深い授業となりました。

4. 生徒との関わりについて

①クラス活動、朝・昼（休み）活動、清掃活動、進路相談、道徳・人権教育など

総合学科の高校であったため、“産業社会と人間”の授業があり、そこで来年度の時間割作りの手助けを行いました。その際、こちらから声をかけずとも、至る所から質問があると声をかけられ、時間割作りのための進路相談を多く受けました。自分の体験を交えながら相談に乗っていると、熱心に聞いてくれたのが印象的でした。また、大学進学を希望する生徒ばかりではない学校なので、生徒たちは色々なタイプの進路目標を持っており、普段ふざけている生徒も自らの進路をしっかりと決めて時間割作りを相談してくる姿が大変素晴らしく、私が逆に生徒から学ぶことが多くありました。

朝・帰りのS.Tで教壇に立って話していたとき、虫が入ってきてクラスが騒がしくなってしまった時がありました。その際、いつも騒いでいる生徒の1人が「みんなうるさいぞー」と大きな声で注意してくれ、こっちに「よし、話して下さい」と顔を向けてくれ、大変嬉しかったのをとても覚えています。もちろん、騒がしいのをすぐに止められなかった

のは、私の力不足でそれは改善すべきなのですが、それでも生徒の心づかいは大変喜ばしいものでした。

②部活動、放課後、行事、生徒会、図書館、宿泊施設など

放課後にクラスに残っている生徒と話す機会が何度かありました。他愛もないクラスのことの話が中心だったのですが、つい熱中してしまい、気づけば1、2時間話していたこともしばしばでした。実習初日にその機会があり、クラスの生徒の状況を知る事ができたのは大きな収穫だったと思います。クラス1人ひとりの個性を教えてもらったおかげで、すぐに名前と顔、そして性格を一致させることができました。また、名前を覚えていることに対し、生徒たちから「名前覚えていてすごい」と皆噂していると教えてもらったことがありました。1人ひとりを見るということは、名前に加えその人の人柄も見ること、それができていると生徒も自分を見てくれていると実感し、生徒側からこちらのことも知ろうとし、信頼してくれるのだと知りました。これは実習に行つて初めて分かったことです。

その他、実習最終日が文化祭だったので、ラスト1週間の放課後はクラスの文化祭準備を手伝うことが多くありました。

5. 教職員との関わりについて

①指導教員との関係

大変良好な関係でした。例えば、当初私は先生が範囲を終わらせてから新しい範囲を1クラス4時間で持つことになっていたのですが、先生の担当範囲が終わらず1時間延びてしまい、1クラスにつき私は3時間しか持てないという状況になってしまいました。そこで、私が想定していたものを少し省き、3時間でなんとか範囲を終わらそうかと先生に相談しました。すると、「せっかく実習にきているのだから無理に終わらそうとしなくても良い、生徒に伝えたいことを授業して個性を出して授業をして欲しい。こんな機会二度とないのだから多くを学んで帰って欲しい」と言ってくださいました。実習生としての私をととてもよく考えてくださり、それに沿った対応を常にしてくださいました。多くを指摘する先生ではなく、他の実習生の担当の先生との違いから、他の実習生からは自由にさせてもらいすぎとよく言われました。しかし、担当の先生は私を自由にしてくださいっていた分、責任を負うというリスクを多く請け負ってくださっていたのだと思います。本当に担当の先生には感謝しています。

②他の教職員との関係（校長先生、教頭先生、教務主任、事務職員など）

教頭先生はよく実習生控室に来てくださいました。教頭先生は、「特に用事はなくともこうして実習生と関わっていくことで、あなたたちは僕に声をかけようと思うでしょう。生徒も同じ。」と仰ってください、非常に説得力がありました。

学年主任の先生とは関わる機会が多く、特に私の朝・帰りのS.Tでの実習をよく見にき

てください、良かったところ、悪かったところをいつも指摘してくださいました。

また、担当の先生以外の国語も知りたいと思い、同じ学年の他の国語の先生にもよく声をかけていたこともあり、次第にその先生からも声をかけてくださるようになりました。また違った視点からの教科についてのことが聴け、とても良かったと思います。自分から声をかける姿勢も大切だと感じました。

6. 今後の課題、展望（目標は達成されたか、これから自分は何をすべきか等）

第1の目標であった教壇実習を精一杯行うという目標は達成されたと思います。生徒たちからの授業に対する感想や反応も良いものが多かったのが嬉しかったです。ですが、生徒たちも実習生という普段とは違った人が授業をしたので物珍しさに聞いてくれていたということもあったかと思います。なので、変に自信を持たず、これからも向上を図りたいと思います。また、授業を行う中で、1つのものを教えるためにはそのまわりのことに加え、一見関係のないような知識も必要だということが分かりました。授業を惹きつけさす魅力の1つに、多くの知識量は欠かせないものです。ですから国語に限らず、ほかのジャンルでの知識もより多く身につけるため、様々な人と話し、興味を持ち、それを自分のものとしていくことがこれからすべきことだと感じました。第2の目標も上記の4、5の箇所から私の中では精一杯行えたと思います。

ある先生から教壇実習よりもわたしはHR運営の方に課題があるとの指摘を受けました。ただ優しく対応しているだけでは生徒はこちらを向かない。締めるところは締めるように指導していくことも教師としての重要な役割であり、それは例えば毎日のS.Tで人の話を聴く態度を指導していくことから身につけていくことだと思いました。ですから、教員になった暁には、HR運営もしっかりできるよう、私自身もただ優しくしていただくだけではなく、普段から生徒に恥ずかしくないように、また指導ができるように、締めるところは締めてはじめを持って生きていこうと思います。